



第26回 環境色彩コンペティション グッド・ペインティング・カラー

“豊かで快適な環境づくり”をテーマとした、塗料・塗装を用いた建築物・建造物等のカラープランニングオープンコンペが本年も開催されました。

(審査会：2023年11月20日 東京塗料会館にて実施)

受賞作品
発表

新札幌駅周辺地区再開発I街区メディカルエリア

(新さっぽろ脳神経外科病院、新札幌整形外科病院、
交雄会新さっぽろ病院、D-スクエア新さっぽろ)

(北海道 内外装 医療施設)



[新築部門]

受賞
代表者

大成建設株式会社 下手 彰

大成建設株式会社 佐々木 直大・西村 浩一・出口 亮・岩崎 篤



<講評>本件は、再開発プロジェクトにおける病院・医療複合ビルの新築設計に伴う色彩計画である。エリアを構成する建築物は高さやボリュームが異なるが、各施設をつなぐ橋脚の上空通路のシンボリック機能によって、本街区にまとまりが生まれるとともに景観的に良好なシーケンスを予感させる空間となっている。この予感には各建物のベースカラーとルーバーに施されたアクセントカラー「彩帯（いろおび）」の色彩コントロールによって現実のものとなっている。

2年前の第24回グッドペインティングカラーでは当該プロジェクトの一環として実施されたG街区の色彩計画が新築優秀賞を受賞している。前作でも今回と同様、対象物件のテーマカラーとして「札幌の景観色70色」が活用されているが、両者を比較して本設計がカラーデザイン・テクニクの進化をうかがわせることも受賞の要因となっている。

<受賞者コメント>医療施設を中心に、多用途の施設が複合する少子高齢化社会ならではの新しい再開発計画。各建物は札幌市の景観色70色より選定したカラフルな縦のライン「彩帯」が四季の木立をイメージさせながら、施設の個性をもたせている。さらに共通のカラーとして「粉雪（白色）」を水平ラインとして使用し、個性と調和をバランスさせた。異なる建物の規模や階数の中で統一感のある街並みを実現できたのは、各事業者の理解と協力があったからこそのもので、心から感謝申し上げたい。2023年12月には、いよいよ街区全体がオープンし、この特徴ある街がますますにぎわっていくことを心から願っている。





最優秀賞

【改修部門】

学校法人和洋学園講堂

(千葉県 外装 学校施設)

受賞代表者

日本ペイント株式会社

奥 香織

株式会社和洋サービス 岩崎 友勇

<講評>対象の物件は、中高大一貫校の講堂で、生徒や保護者を含めた学園関係者に長く愛された施設であり、建て替えではなく改修によってその思いを継承していくという方針が色彩設計コンセプトの軸となっている。対象の講堂の現状は部材の老朽化などにより、これまで愛着を持たれてきた雰囲気は維持できなくなっていることや、ひとつの建築美に傾倒する創建当時の景観評価の傾向が時代にそぐわなくなってきたことにより、周辺施設に対して不調和感を覚える構造物になっていった。このような課題を受けて、きわめて明快で具体的な方向性を持った改修案が示されている。

近年の教育施設の改修は、スタイリッシュやカラフルな色使いの事例が多くみられるが、本件はもともとの建物の色を活かし、色みや塗分けを工夫してリフレッシュした良好な事例である。周囲の既存建築物のタイルや煉瓦などとの調和を意識したきめの細かい色彩設計である。改修前後を見比べると、建物形状を活かした色彩選定の手順がアップデートされていることがよくわかる。



<受賞者コメント>学校法人和洋学園講堂は、式典やイベントで生徒や保護者が集う、趣のある施設です。古き良き時代を彷彿とさせる建築形状を生かし、大きくイメージチェンジを図りました。時代の先をゆく新しい女子教育を実践しながら、日本の美意識を守り続けてきた和洋学園らしさを、優しい彩でイメージアップ。控えめなコントラストで建築美をキープし、敷地内の校舎との統一感を高めました。今後も関係者の方々に、永く愛されることを望んでおります。



改修前

改修後



優秀賞

【改修部門】

大島四丁目団地2,6,7号棟

(東京都 内外装 集合住宅)

受賞代表者

独立行政法人 都市再生機構 鈴木 陽子

株式会社日東設計事務所 岡本 司

<講評>本件は、高層7棟の団地の改修による色彩計画である。建物の構造分類によって、3種類のパリエーション展開を持つカラースキームを設定し、飽きのこない表情を創出するとともに、サインとしての機能も盛り込んだ設計となっている。このカラースキームによって団地を構成する各棟の位置付けが明確になるとともに、穏やかな色彩選定により、緑の豊富な周辺環境と静かに対話しているような環境に仕上がっている。これらの表情を決定づけた要因として、詳細にデザイン展開の拠り所を見ても、壁面のデザインモチーフとしてテキスタイルを取り上げたところであろう。糸を編み込んだ布地が観察距離によって表情を変えるように、低彩度の数種類の糸を編み込むような繊細さが建物立面からも感じられ、周辺環境ともバランスのよい景観となっている。低層エントランス部の扱ひも品よく、設計者の技量の高さを感じさせる。

<受賞者コメント>URでは「周辺環境、景観、景色/建物と屋外環境との調和/居住者にとっての分かりやすさ、快適さ、親しみやすさ/大~小さいパーツまでシームレスに考え課題解決を図る、安心安全等」を意識しながら外壁修繕に取り組んでいます。大島4丁目は8・9・14階の高層7棟からなる大団地です。今回はそのボリューム感を抑えつつ、建物形状のポテンシャルを引き出すことを目指し、形状を丁寧に分析し、奥行きや柔らかさを表現する「布」のような色彩計画としました。また、サイン計画も部分ごとにデザインや見やすさ等を確認しながら計画し、既存を活かしながら刷新しながら、親しみやすく、快適な空間作りの工夫を行っています。



改修後



改修前



特別賞

【改修部門】

三鷹台団地

(東京都 外装 集合住宅)



改修後



改修前

受賞代表者

独立行政法人 都市再生機構 児平 亜由子

有限会社クリマ 加藤 幸枝・澤 千晶

株式会社集研設計 佐藤 文昭

<講評>本件の特徴は、環境設計に対してデザイン性の高い取り組みが建設当初から行われ、それにふさわしい配置計画による建物が対象となることであろう。その代表といえる特徴が南北に走るプロムナードであり、利用者に対して快適な歩行者空間を提供している。さらに各棟のメインエントランスはプロムナードに開かれ、各棟特有のエントランスデザインが歩行者に対する良好なシーケンス景観を演出していた。しかしながら改修前には変退色等により色彩計画のテーマ性が感じられないほどに劣化していったようである。

本件の改修では、カラースキームとして基調色3色、強調色として4色相と3トーンの系列で計12色を選定している。基調色は低彩度のニュートラル系から明度コントラストの高い3色が選定され、経年変化に対応していることをうかがわせる。さらに強調色による、4種類の色相をもちいた住棟個性の演出があり、3トーンを用いた変化の演出が見られる。いずれも緑豊かなプロムナードを視点場としたシーケンス景観が楽しめる設計である。

<受賞者コメント>三鷹台団地は、三鷹市内において緑地や農地などが多く残された緑環境に恵まれた住宅街区に立地しており、建設当初から周辺環境によく配慮された外観となっていました。そこで既存の良い点は踏襲しつつより快適な居住空間となるように「ニュートラル×アクセントカラー」をテーマとし、周辺環境との調和や街区全体の連続性や一体感を演出するために、基調色は色味を最小限に配したニュートラルな外形としました。またアクセント効果として各住棟の形態・意匠の特性に合わせたアクセントカラーを展開することで、視認性を高め歩行者空間に豊かな変化を意識した色彩設計としました。